

暑い日が続くようになり、熱中症が心配な時期となりました。体が暑さに慣れていない梅雨明けや急激に気温が上がった日は特に注意が必要です。喉がかわいていなくても水分をこまめに摂取するようにしましょう。



今月の目標

- こまめに水分をとみましょう。
- しっかり睡眠をとみましょう。

夏に多い感染症

ヘルパンギーナ

突然の高熱と喉の痛み、口の中の水ぼう、口内炎が特徴です。症状が軽ければ1～4日くらいで解熱します。



手足口病

手の平、足の裏、口の中に水ぼうがで、発熱することもあります。食事は喉越しのよい物を食べましょう。



ウイルス感染によって起こる病気です。他人への感染力も強いので、必ず受診をして医師の診断を受けましょう。

プール熱

プールで感染することもあり、高熱が3～5日くらい続き、喉の痛み、目の充血やかゆみなど結膜炎のような症状も出ます。食事は消化のよい物を食べましょう。



流行性角結膜炎

目が腫れ、充血し、普段より多く目やにや涙が出ます。周りの人への感染源となるので、タオルは共有しないようにしましょう。

保育園での薬の取り扱いについて

主治医から乳幼児に処方された薬は、元来保護者が与えるべきものであるとされており、やむを得ない場合に限り園での取り扱いとなっています。しかし、複数の園児が薬を持参すると集団保育の中での与薬はリスクを伴います。日常多いかぜ症状等は受診する際に、必ず保育園児である事を伝えて家庭で内服する方法を医師と相談して下さい。

1日3回与薬の場合、朝、帰宅時、寝る前に内服できないかや、1日2回の与薬で可能な内服にしてもらう等、相談してください。

慢性疾患や、医師が保育園での生活時間内に内服しなければならないという指示の薬は保育園で取り扱います。